和田家文書のスキタイ・ゲルマンについて

昭島市　　西坂　久和

１、概要

和田家文書では、「黒竜江を遡り、モンゴルから西山靼へと通じる北方草原の道」が発達していたと伝えています（竹田侑子氏による要約）。これらの道は、縄文時代から交易路として発達していて、全ユーラシア的に共通な文化圏を形成していたのではないか。

日南田遺跡９号住居出土

２、ジョッキ形土器

八王子市の大学セミナーハウスの西５㎞のところにある日南田（ひなた）遺跡にて、２００２年３月ジョッキ形の土器が発掘されました。縄文中期の製作と報告されています。ドイツのビールジョッキとの形状の類似について、古田先生は「ゲルマン民族の出身は、バイカル湖周辺だという伝承がある。ジョッキと縄文土器とは同じ淵源なのだろう。」と、仰っておられました。近年のシベリアでの発掘などから、和田家文書の記述の正しさや、全ユーラシア的な文化の共通性が明らかになってきています。（筆者撮影と資料⑧）

エルミタージュ美術館
スキタイカップ

３、和田家文書とスキタイ・ゲルマン文化

和田家文書では、各処に東日流とスキタイ・ゲルマンなどとの交流について記事があり、竹田侑子氏が仰る「黒竜江を遡りモンゴルから西山靼へと通じる北方草原の道」は、縄文時代から交易路として発達していたのではないかと推定しました。

A,近年の発掘により、北方草原の道にあたるバイカル湖西方トゥバ共和国・アルタイ共和国に、最も古いスキタイ文化である紀元前９世紀の遺跡があることがわかりました。

B,ジョッキ形の縄文土器は、紀元前３，０００年頃の縄文中期の土器で、その２，０００年後のスキタイ人が真似したのではないかと推定しました。

C,和田家文書でも、「歴史」（資料①）でも、各民族が北から南や西方向へ玉突き状に押し出されていく様子が記述されています。

D,トゥバ・アルタイ（金山の意味）の古墳では、黄金製の装飾品・青銅製の武具や四輪馬車などの副葬品が見つかっていて、スキタイの技術が優れていたことを示しています。

E,古墳からは、金髪碧眼で全身刺青が施された遺体も見つかっていて、文化の担い手が、

スキタイなのかゲルマンなのか区別しづらいことが分かってきました。核ＤＮＡ分析からもほとんどの遺体が、ヨーロッパ系であることが分かってきました。黥面文身(全身刺青)は南アジアだけでなく、全ユーラシア的に広がる文化だったことが分かります。

（地図は西坂作成）

F, １５０７年に、フランスで発行された地図（資料②）には、ウラル山脈をはさんで内スキタイ（ヨーロッパ側）・外スキタイ（アジア側）と記され、秋田孝季が訪問するころまでスキタイの呼び名が残っていたことを推定させます。

G, 外スキタイ（現カザフ）地方には巨大な円墳・方墳・階段状ピラミッドなどが残っていて、スキタイの影響を示しています。(資料⑨)

Waldseemuller map 1507年

カザフに残る墳墓群

H, 「トゥバ紀行」(資料③) は、ソ連邦による占領が本格化する直前のトゥバの状態が描かれ興味深い書物です。トゥバのストーンサークルなどに並ぶ石人は、古墳の主人公によって打ちすえられた敵の像との説が載っています。「敵祭」や日本の古墳の埴輪との関連が注目されます。

I, 同書では、あちこちに立つ鹿石と呼ばれる石柱に刻まれた突厥ルーン文字についても、北欧で使われていたルーン文字との類似について説明があります。

J, さらに同書では、昔のトゥバの支配者として、キルギス人をあげています。キルギス人には、日本人と同祖だという伝説が伝わっています。キルギス模様とアイヌ模様との類似

や刺青などキルギスとアイヌとの文化的共通点を示す材料があります。しかし、現在の土地にキルギス人が移ってきたのは、チンギス・カンによる大征服後の十五世紀で、紀元前にはトゥバの更に北方にいたとの話があります。現在の民族分布から古代の祖先の位置を推定するのには困難があることが分かります。

K,「歴史」(資料①) では、スキタイが幻覚性大麻を用いているとの記述があります。

百済武寧王陵から、麻布に包まれた柄杓が見つかっていて、同様の物が日本国内の古墳からも見つかっているとの、大墨伸明氏のご指摘がありました。

「歴史」(資料①) などの記載から、こういった柄杓は大麻を炒ったり焦がしたりして、幻覚性を得るのに用いたのではないかと推定しました。

トゥバのアルジャン古墳から見つかった黄金柄の柄杓の写真を示します。大麻成分が残ったスキタイの金属容器も見つかっています。(筆者撮影と資料④・⑤・⑥)

王塚古墳の蕨手文

キルギス

アルジャン古墳の黄金柄の柄杓

L,「歴史」(資料①) の記述を、ユーラシアの地形に当てはめると、スキュタイ人の北東方向にイッセドネス人が住み、その向こうに一つ眼のアリマスポイ人が住み、さらにアルタイには、鳥をトーテムとする一族が金山を守っていると解釈できます。

一つ眼というと荒唐無稽な話と思われるかもしれませんが、日本でも片目で金属の製錬を行う火男(ひょっとこ)の話が伝わっています。アルタイとカザフの間に、スキタイの金属器製造基地があったと推定できるのではないでしょうか。

M,日本でも縄文時代から大麻は用いられ、現在でも、神社のお札を「大麻」と称するなど、シャマニズムの儀式に用いられたあとが残っています。(右の大麻は筆写撮影)

来週の大嘗祭では、大麻で作られた「麁服(あらたえ)」が、絹で作られた「絵服(にぎたえ)」とともに用いられます。

山口博氏は、日本各地やトゥバ・イランなどを旅行なさり、「古代日本の鳥装の神は幻覚性大麻を使いこなすシャーマンだった。」と、「大麻と古代日本の神々」(資料⑦) にて説明なさっていらっしゃいます。祭事を担当してきた四国出身の斎部氏の祖先が、より幻覚性が強い大麻を求めて現在の千葉県に到達したとの説です。

大麻(おおぬさ)
大国魂神社にて

４、和田家文書

和田家文書では、東日流とスキタイ・ゲルマンなどとの交流や、日本における幻覚性大麻利用について各処に記事があります。北方新社版和田家資料などから、いくつか抜き出してみます。

・和田家資料二 P50　　甦必丑寅日本国史　　（中略）

山靼より丑寅に次男、三男の移住多くして、その子孫ぞ蒙古系ブリヤートなりき。

此の国より吾が国に移住帰化せる早期にては、ゲルマンに襲はれて敗れしスキタイ民族なり。今より七千年余のゆがめらる世の民族争動ぞ起り、ゲルマン族に迫るるまま四散せるも、騎馬群盗王たる遺跡は、ただ石敷きたる墓陵ある耳なり。

騎馬民族たるスキタイの亡ぶるは、天候風土の異変に、馬の流疫死相続き、一族を指揮せる王のなきが因果たりしも、モンゴール、ブリヤート族ら是を受継ぎて騎馬軍団の絶ゆなきは、わが丑寅日本国までも流習せり。

馬の渡れるは、丑寅日本国が馬産の始めなり。産金貢馬の要因は、スキタイ民族の伝統に習はしめて、黄金の採鉱を知るに得たり。　　（後略）

・和田家資料四 P35　　四　　（中略）

原民シュメイル人を吾が丑寅日本国に導きたるも、彼のシキタイ流民たり。是れなる道路を荒覇吐道とぞ曰ふ。道とて無かりけるも、方位にして山川を目印したる耳を古代に道と曰ひり。　　（後略）

・東日流外三郡誌　1　古代篇(上)　　２００３年新版　八幡書店　P174

基より吾が国の創は幻化に無想易く、日向族なる智明の国主、麻草を用ゆる占師を以て愚知なるを犯し、侵領の国に害意を興す。依て耶馬台国大いに民困厄し、苦害に逼らるるなり。諸悪の想念重なりて、遂に戦を以て報復す。而るに麻草の薬を用ふる戦士、死を怖れず攻め来るに、耶馬台族いたくうちやぶれて、故地を脱けいでぬ。是れ安日彦、長髄彦らの東日流落着なりき。　元禄七年八月二十日　藤井伊予　述

・東日流外三郡誌　1　古代篇(下)　　２００３年新版　八幡書店　P71　　大魔力薬の秘

日向一族の主たち、神賜とて与ふる薬酒、人の魂を抜く大魔力薬なり。

ひとたび是を味はいし者は、この神賜酒を慾して神司者の意のままに死」を怖れず尽せりと曰ふ。日向一族は、是れなる大魔力薬を以て、津々浦々の郷族酋長に賜酒に仕込て従かはせ、耶馬台軍の放矢の楯になしたり。

この魔力薬をなす草を大麻よりとりいだすといふ。麻は糸取りの草にして、是は日向一族の衣を織なすものなれば、それなる草よりとりいだす魔力薬、如何にて得たるぞ、神は司る者の他に知るべきもなき。　　かたり　そうべい

右の如く、語部に伝へ遺りける日向族の神なる神爾」にも用ふる麻糸ぞ、荒吐神にては用ふなし。荒吐族の衣はシナマンダの木の他に用いずと曰ふ。

神をして大魔力薬とは、かかる非道のものなれば、神の大御霊にそむき奉る行為なり。

元禄十年八月　　藤井伊予

P143　　征夷因習の遺行事

抑々、日本神事祭礼に用ふる麻なる皮を多く献神せるは、太古に麻なる葉を香炉にたき、その煙を吸わせ、諸人を従かはしめたる因習に依れるものなり。

また葉茎に至るまで汁をしぼりて酒に混じるも、衆を神に従かはしむる策なりせば、麻はただ衣となせるためならず。

魔草とぞ思いとり神事に用いたる古事に習ふるべからず。

元禄十年一月一日　　秋田頼季

５、ジョッキ形縄文土器の用途について、

埼玉から神奈川にかけて、同様な把手付き土器がいくつも発掘されています。それらの内部には物を燻した跡があり、祈祷時の依り代（憑代）として用いられたことを推定させます。　　（勝坂式縄文土器　日野・昭島・立川・八王子の各資料館にて筆者撮影）

七ツ塚遺跡出土

西上遺跡出土

向郷遺跡出土

中原遺跡出土

６、まとめ

「北方草原の道」は縄文時代から交易路として発達していて、刺青・シャマニズム・大麻・ストーンサークル・墳墓・蕨手模様など、そのころから全ユーラシア共通の文化圏を形成していたのではないか。

参考文献

・資料①　歴史　上・中・下　岩波文庫　青　405-1～-3

・資料②　https://www.loc.gov/rr/geogmap/waldexh.html　Martin Waldseemüller's 1507

・資料③　トゥバ紀行　岩波文庫　青 471-1

・資料④　https://ainu-monyou.com/archives/2161

・資料⑤　https://ameblo.jp/dokodemoegao/entry-11645249862.html

・資料⑥　https://www.youtube.com/watch?v=6qNQH7a7HH0　Tuva "Arzhan Kurgan1"

・資料⑦　大麻と古代日本の神々　宝島新書

・資料⑧　http://www.scalarchives.com/scalapic/050514/c/DA84753c.jpg

・資料⑨　https://www.youtube.com/watch?v=zyKXMfUsiRE